

昭和四十六年十一月招集

昭和四十六年十二月招集

千葉県館山市議会会議録

館山市議会

第五回 館山市議會臨時會會議錄

第五回館山市議會臨時會會議錄目次

日時、場所、出席議員	二
欠席議員、出席説明員、出席事務局職員、議事日程	三
開會、會議錄署名議員の指名、会期の決定、提案理由の説明	四
議案第七十五号	六
議案第七十六号	二一
議案第七十七号	二二
閉會、本日の會議に付した事件	二九

第五回館山市議會臨時會會議錄

昭和四十六年十一月招集

一、昭和四十六年十一月五日（金曜日）午前十時

一、館山市議會本會議場

一、出席議員 二十七名

二	二	二	一	一	一	一	一	〇	七	五	三	一
番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番
安	菊	鈴	島	宮	和	五十嵐	渡	渡	近	流	吉	
沢	井	木	野	野	田		辺	辺	藤	山	田	
徳	敏	市	茂	敏	一		軍	昭	好	源	勇	
順	博	蔵	郎	朗	郎	昇	治	夫	雄	次	郎	

二	二	二	二	一	一	一	一	二	九	六	四	二
番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番	番
飯	西	田	君	安	辻	伊	藤	辻	栗	鈴	林	
田	村	村	塚	西	井	賀	田	田	原	木		
		源		喜	益	謹	多	益	一			
義	真	治										
男	次	郎	三	男	爾	朗	治	実	雄	稔	豊	

二七番 望月 照正
二九番 秋山 六三郎

二八番 田中 祿郎

一、欠席議員 三名

八番 石井 武敏
三〇番 速山 ヨネ子

一一番 山本 昇

一、出席説明員

市長 本間 讓

助役 島山 伝

収入役 高木 哲三

秘書課長 太田 博雄

庶務課長 小倉 澄男

財政課長 長谷川 広治

商工観光課長 鈴木 力

水道課長 大嶋 重義

一、出席事務局職員

事務局長補佐 高尾 豊

書記 兵藤 恭一

書記 錦織 睦子

書記 渡辺 弘

書記 川上 義雄

書記 福田 英雄

一、議事日程

昭和四十六年十一月五日午前十時開議

日程第一 会議録署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 議案第七十五号 昭和四十六年度館山市西部簡易水道事業特別会計補正予算(第一号)

日程第四 議案第七十六号 契約の変更について

日程第 五 議案第七十七号 館山市中小企業資金の融資に関する条例の一部を改正する条例の制定について

開 会 午前十時二分 開 議

○ 議長 (吉田勇治郎君) 本日の出席議員数二十五名、これより第五回市議会臨時会を開会いたします。

本臨時会の議案審議のため、地方自治法第二百一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり出席報告がありましたので御了承願います。

議案を配付いたさせます。議案の配付漏れはございませんか。—— 配付漏れなしと認めます。
本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

会議録署名議員の指名

○ 議長 (吉田勇治郎君) 日程第一、会議録署名議員の指名を行ないます。

本臨時会の会議録署名議員に六番議員栗原一雄君、二六番議員飯田義男君以上両君を指名いたします。

会 期 の 決 定

○ 議長 (吉田勇治郎君) 日程第二、会期の決定を行ないます。

本臨時会の会期につき議会運営協議会の意見は本日一日ということであり、おはかりいたします。会期を一日と定めますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よつて会期は本日一日と決定いたしました。

提案理由の説明

議長 (吉田勇治郎君) この際本臨時会招集につき市長のあいさつ並びに提案理由の説明を求めます。

(市長本間 譲君登壇)

○市長 (本間 譲君) 本日御審議をお願いいたします案件につきまして御説明を申し上げたいと存じます。

本日ここに、第五回臨時市議会を招集し、急拠御審議をわすらわします案件は条例の改正、補正予算及び契約の変更が各一件であります。

まず、中小企業資金の融資に関する条例の一部改正であります。わが国経済は激しい内外の経済環境の変化に直面し、中小企業を取り巻く環境は一段ときびしさを増しておりますが、中小企業者がこの大きな経済環境の変化を克服して経営の合理化、設備の近代化をはかり高度の生産性と高い技術を有する企業へ脱皮していくことは現下の急務であります。本市は昭和三十三年より中小企業の融資制度を実施して参りましたが、この間預託金の増額、貸し付け限度の引き上げ等制度の充実につとめて参りましたが、今回さらに設備資金にかかわる貸し付け限度額現在百万円を三百万円に、貸し付け期間二カ年以内を三年以内に改め、中小企業者がこの制度を広く活用することにより、変動の多い経済情勢に十分対処できるよう処置しようとするものであります。

次に、西部簡易水道事業特別会計補正予算及び同工事請負契約の変更についてであります。同工事につきましては昭和四十五年、六年両年度の継続事業として工事を実施中ですが、水源として使用している深井戸の地下水が当初計画の時点と井戸堀さくの時点においても水質基準に適合してしたのであります。その後継続して揚水しましたところ、鉄及び色度について水質基準を越えることとなります。再三にわたり水質検査を行なうとともに経過を見て参りましたが、波菌消毒のみでは好転のきざしがない。沈でる過の浄水施設が必要となりましたので、これらに関連する補正予算及び契約の変更をお願いし、一日も早く浄水施設を設置し、住民に清浄な水を供給することにより環境衛生の向上と住民福祉の増進をはかるうとするものであります。

以上、簡単でございますが、説明を終わりますが、詳細につきましては関係課長らをして御説明を申し上げますと存じ

ますので、十分なる御検討をたまりまして原案通り御決定をぜひともお願いをいたしたいと存ずる次第でございます。

○議長 (吉田勇治郎君) 暫時休憩いたします。

午前十時十一分 休 憩

午後一時 三分 再 開

○議長 (吉田勇治郎君) 午後の出席議員数二十五名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

○議長 (吉田勇治郎君) 日程第三、議案第七十五号昭和四十六年度館山市西部簡易水道事業特別会計補正予算第一号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第七十五号 昭和四十六年度館山市西部簡易水道事業特別会計補正予算(第一号)

議案の内容説明

○議長 (吉田勇治郎君) 議案の説明を求めます。

○水道課長 (大嶋重義君) 議案第七十五号について御説明申し上げます。

今回は第一号の補正でございます。このたび歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ二千二百二十七万六千円を追加いたしました。歳入歳出それぞれ一億七千五百五十九万九千円にしようとするものでございます。この内容につきましては、のちほど事項別明細書で御説明申し上げますが、これに関連しまして継続費の補正と地方債の補正がございます。この継続費の補正につきましては三ページ第二表に掲げてございますのでごらんいただきたいと思います。これによりまして四十六年度分の年割り額が増となりました。このような数字の補正になるわけでございます。それから地方債の

補正でございますが、四ページに第三表で示してございます。当初五千八百万の限度額でございましたものを今回の補正で七千七百万に補正しようとするものでございます。

次に、補正の内容について申し上げます。六ページ歳出の部から御説明申し上げます。一款一項一目水道事業費の中で二千二百二十七万六千円の追加補正でございます。この内容でございますが、十三節に委託料といたしまして四十万円計上いたしました。これは次の十五節の工事請負費で御説明申し上げますが、西部簡易水道の水質変化に伴いまして浄水施設を必要といたすわけでございますが、これには県の水道事業の変更認可が必要でございます。その認可申請書作成の委託料としまして四十万円をお願いするものでございます。

次に、十五節で二千八十七万六千円の追加でございます。今回この工事を行ないたいと思いますものは、西部簡易水道の水質変化に対する対策といたしまして沈でんろ過等の浄水施設を主体とする工事費等でございます。合計二千六百四十万四千円を要するものでございますが、このうち当初予算の付帯工事の中で一部計画変更によりまして約五百五十余万円程度の追加財源がありますので、これを充ちたいしますので差し引き今回計上額の追加となるわけでございます。

次に、この追加の理由につきまして申し上げますが、西部簡易水道は水源といたしまして神戸の佐野地区に深井戸四本を掘りこの地下水を利用し、現在試験給水中でございます。当初この水道を計画するにあたりまして調査の段階で水源地点の地下水の精密な水質検査を行ないまして、法令で定めます水質基準に適合していることを確認いたしましたので、県の認可を取り事業実施に移つたわけでございます。そうして井戸を堀りまして終つた直後において水質検査を行ないましたところ、いずれも水質基準に適合しておりましたので、浄水施設といたしましては濾菌設備のみを設置いたしましたのでございます。ところが通水の段階になりましたら継続して通水を行なつて参りましたところが水質の変化が生じて参つたのでございます。この水質変化の状況につきましてはお手もとに配付いたしました参考資料によりまして御説明申し上げますのでごらんいただきたいと思います。

西部簡易水道水質検査結果表というのをもらいたきたいと思ひます。この表の見方でございますが、上のほうに井戸が一号井、二号井、三号井、四号井とございます。四本の井戸の区分でございしますが項目といたしまして採水年月日これは水を取つて検査した月日が右の欄に表示してあるわけでございますが、その下にアンモニア性チツソでございますが、以下濁度の欄まで十二項目の水質種類が掲げてあるわけでございます。この厚生省令で定めますものとして二十七項目でございますが、ここにあげたものが大体この井戸に關係したおもな項目でございますのであとは省略したわけでございます。ここでこの中で一号井の左の欄と三号井の左の欄で点線のワクでかこんでございます。実はまだ水道事業を行なう前に調査の段階でこの佐野地区に旧軍が使つた古い井戸が一〇〇メートル程度深いものが二本ありますので、このものを揚水試験をし、水質検査を行なつたものがここに出てゐるわけでございます。それで摘要欄の右のほうに省令で定めます水質基準の限度を書いてございます。この数値以下のものならばよろしいわけですけれども、これを越えたものについてはいけないという規則になつてゐるわけでございます。

これで、調査の段階におきましてここに掲げてございますように鉄につきましても〇・三以下でなければならぬというわけでございますが、鉄につきましてもさしかえなかつたわけでございます。それから色度においても全く透明でゼロでございます。そうしたわけでこの計画に移つたわけでございます。四十五年度事業で各井戸を許可を取つて掘つたわけでございます。それで一号井につきましても二月十五日に検査いたしましたものにつきましても、このような数字で何ら基準に不適当なものがなかつたわけでございます。二号井につきましても三月三十日このような数字でございます。三号井についても同じでございます。四号井につきましては、過マンガン酸カリウム消費量これは有機物の關係でございますが、この数字だけが越えておつたわけでございますが、これはまぜ合わせますというところ以下になるということで何らこの時点につきましては波菌だけでよろしいということになつておりましたので仕事を進めたわけでございます。

それで、七月に通水を行ないました結果次の欄に赤ワクが出ておりますが、これがこの基準に抵触するということ

でしるしでございます。ここに掲げてございますように七月に行ない、最近は九月に行なつておるわけでございますが、このように鉄が一号井につきましてはだんだんふえて〇・四三、それから色度が六になりました。二号井につきまして〇・五九、色度の関係は一六とふえております。三号井についてもここに掲げてございますとおりでございます。四号井についても有機物の関係は七・九に減つておりますけれども、鉄分と色度が四〇とふえております。このような数字でございます、この二つの関係がどうしてもこの基準に適合しないという結果になつたわけでございます。

普通簡易水道の場合特に地下水も深井戸でございますので毒物とか、こうした色度とかこうした関係はないのでございますけれども、したがつて滅菌器だけで浄水施設はやつておるのが通例でございますけれども、このような変化を見ましてどうしてもこのままでは送水できないということでございます、私もこれにつきまして、この処理方法につきましていろいろと研究もいたしましたし、水道コンサルタントや県にも相談いたしましたわけでございます。その結果どうしてもそのためには沈でんろ過の設備が必要であるという結論に達しましたので、浄水場の敷地内にこのような施設を設けたいと思ふのでございます。そしてこの施設につきましては、国や県の特別の財政援助の見通しもつきませんでしたので、一日も早くこの浄水施設を完成して地域住民の皆さんに清浄な水を供給して福祉の増進をはかりたいと思ふのでございますのでよろしくお願いいたしたいと思ふのでございます。

次に、歳入の關係がすぐ上欄にございますので御説明申し上げます。今回これにつきまして国の補助が五百万、県が二百万、それから起債のほうが二千万ということでございますけれども、これにつきましては当初の予算に対しまして補助が起債等が多少少なくなつておりますのでこの補正額につきましてはこのような数字に相なつております。この数字で特に繰り入れ金でございますが、四百万円の一一般会計からの繰り入れの減でございます。これは起債が当初予定した額よりも多く借りられるということに相なりましたので、このような補正をいたしたいと思ふのでございます。

次に、継続費につきましての調書の補正が掲げてございます。以上申し上げましたような關係で四十六年度分につきまして全体計画等につきまして、このような数字に継続費の調書がかわつて参りますので御了承願いたいと思ひます。

なお、この裏に地方債の調書の補正を掲げてございます。五千八百万だったものが今回の補正で七千七百万円、年度末の現在の見込み額が七千七百万円このように相なるわけでございます。よろしくお願いいたします。

質 疑 応 答

○ 議長 (吉田勇治郎君) これより質疑を行ないます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) 水質基準が違つたからといつて補正予算が出されているわけですが、当初からこういうことについては慎重な調査が必要であつたのではないか。この表を見ますと、たとえば三号井につきましては鉄分が〇・五三がその後の調査では〇・三に減つておる。これは二号井についてもそういうことがいわれるわけですが、この調査たびにかわるということ、しかも基準よりも低くかわつていっているということは、この後においてもほかの井戸が時期的にもつと先にいつて調査したら減るのではないか。そういう点についてどういう調査の方法でこういうふうな変化が起つているのか。また今後もし起り得る可能性があるとするれば補正予算を組んでつくらなくてもやれるのではないかという疑問が出てくるわけです。そういう点について調査の内容的なものについて御質問したいと思います。

○ 水道課長 (大嶋重義君) 水質の変化の状況でございますが、私どもは水道課の中に水質検査室を設けておるわけでございます。最初この調査時点での調査におきましては、これは県の水道局の栗山浄水場の試験室に持つていつて精密な調査をお願いしたわけでございます。その時点でさつき申し上げましたような結果が出ておりますので、これにつきましてまず心配はないというようなことで当然このような事業を行ないますには、県の主管課とも十分な打ち合わせあるいは指導が必要でございまして、その時点でじやよろしいということでございまして、認可申請をいたし許可をいただいたわけでございます。この中で一番心配と申しますか、鉄分と色度の関係があるわけでございますが、鉄分につきましては多少こうした変動が出ております。これはすべて市の水質検査室におきましての厚生省令で定める基準の水質検査を厳密に行なつたものでございますが、色度の関係につきましては、このように減るといふより減ふえるほう

が多いというような状況でございます。現在通水しておりますが、四号井につきましては色度の関係が強うございますので、一応四号井の水は今のところ送らないで三号の井戸を混合したものを試験通水で送っております状況でございます。この関係につきましては時間の経過を待つても解消する見込みがないという専門家の意見等もございまして、私どももこうした七月からずつと経過を見ておるわけでございますけれども、そうした好転するといふきさしもございませんのでこのような対策をしたい。こう考えるわけでございます。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) ただいまの説明で特に色度がかつたのが大きな問題になつておるようですが、さく井の深さをかえるとか、地下水というのはさく井の深い、浅いによつてかなり相違が出るわけです。だから技術的に深さをかえるとか、こういうようなことによつてこの水質の変化が起こるものと考えられますが、そういう点はどうなんです。

○ 水道課長 (大嶋重義君) この井戸の浅い、深いの関係でございますが、西岬からこの館山周辺すべてそうでございますけれども、あまり深くなるというと色度の関係がたいていの井戸に出て参っております。ですから一〇〇メートルぐらい今回の井戸は一〇〇メートルの深さでございますが、それ以上掘つた場合にはほとんどもう失敗しております。そうしたことで今回私どもの四本の井戸につきましても水を取つてゐる層は第一層でなく、第二層の五〇メートルから以下のものを取つてゐるわけでございます。上のほうの表流水等を取つてゐることは井戸水とか、あるいはかんがい用水等にも影響いたしますので五〇メートル以下のものから取つております。

○ 九番 (辻田実君) まず三点についてお伺いをいたしたいと思います。

まず、第一点はこの調査でございますけれども、この表によりますと館山市役所水質検査室の調査のようになつておりますけれども、四十六年七月二十二日と四十六年九月三日の最後の二日は同じ日でございしますけれども、その前の検査の日については若干ずれがあるわけでございしますけれども、この一覧表はすべて館山市で行なつたものかどうか。この点についてまず第一点。

これに関連しまして、調査を厳密にしたということでこの事業認可するときに綿密な検査の結果、適応の確認を得たということでございますけれども、その適応の確認を得たのは先ほどの答弁の中で栗山研究所で云々ということを書いておりましたけれども、これはどのどういう関係の機関なのか。そうしてそのときの適応であつたという認定をくだした研究所ですか、検査機関の所在を明らかにしていただきたいというふうに思うわけでございます。

第二番目に、それと関連いたしまして項目ですね、参考のために聞いておきたいんですが、水道の水質検査基準の項目というのはここに書いてある項目以外にはないのか。そうして栗山研究所で行なつたといわれておるところの検査ですか、この調査項目はこの市役所の検査室でもつて行なつたものと検査項目も同一のものかどうか。同じものをやつたのか。それとも多かつたのか、少なかつたのか。その点については二番目に項目の問題をお聞きしたいと思ひます。

第三番目に、精密な検査ということだつたんですが、この点については精密な検査であれば私は通水を始めるまでは許可の段階では精密な検査の結果適応だということを市長さんも、課長さんもうわれておりましたけれども、通水してみると水質の変化が起きたということでございますけれども、水質の変化という表現がどういう意味かわかりません。これが必要するに本題の中心的な問題であつて通水時における水質の変化というものがどういうものかももう少し具体的に説明してもらわないとわかりにくいわけでございましてまず三点について伺いをいたしたいと思います。

○ 水道課長 (大嶋重義君) お答え申し上げます。まず第一点でございますが、水質検査や調査でございますが、これはこの表にも掲げてありますとおり四十四年、いわゆる事業の調査時点におきましては市の水質検査室はまだできておらなかつたわけでございます。したがいまして、この調査時点のものはこの欄にも掲げてございますように、千葉県の水道局の栗山浄水場の水質課の検査室に委託しての調査でございます。

それから、栗山浄水場におきましての調査でございますが、ここに四十四年十月二十日、四十四年十一月十二日、三号関係は四十五年二月十六日調査したデータそのとおりでございますして、そうしたことで何ら不適格のものはなかつたというわけでございます。栗山浄水場でございますが、県の水道局の施設でございますして、大体こうした広い範囲の

項目を実施する機械といたしましては相当水質検査室には金もかかるわけでございますので、ほとんどの水道設置している市町村では銚子ぐらいのものでほかのところではほとんどこの県の水道局の検査室に持ち込んで法に示された定期検査あるいは臨時検査等を行なつておるわけでございます。それから水質検査の基準、項目等でございますが、この四十六年の二月以後のものにつきまして井戸を掘り終つたわけでございますが、これ以後のものにつきましては市の水質検査室において行なつたものでございます。この検査の方法等につきましては、これは省令で示されておりますので県で行なうものも市で行なうものも全く同じ方法で行なつてゐるわけでございます。

それから、厚生省令で定める項目でございますが、ここにも十二項目でございますけれども、省令におきましては全部で二十七項目が示されております。全部申し上げますというアンモニア性チツソ及び亜硝酸性チツソこれは同時に検出されないということ。それから硝酸性チツソこれは一〇PPM以下であるということ。塩素イオン二〇〇PPM以下であること。有機物と過マンガン酸カリウム消費量一〇PPM以下であるということ。それから一般細菌が一ミリリットルの検水で形成される集落数が一〇〇以下で大腸菌群が検出されないということ、それからシアンイオンの関係が検出されないこと。水銀、有機燐いづれも検出されない。銅、鉄、マンガ、亜鉛、鉛、六価クロム、砒素、弗素、カルシウム、マグネシウム、蒸発残留物、陰イオン活性剤、それから水素イオンの濃度これはペーハーの関係でございますが、五・八以上ないということ。臭気の関係くさみ、味かういつたものが異常でないということ色度五度以下である。濁度二度以下であること。このように省令では定めてあるわけでございますが、西部の関係につきましては一応これはやりましたんですけれども、関係なくて大腸菌等についてはゼロというような結果でございます。そういうことではここにはそのうちの十二項目を掲げたわけでございます。

それから、精密に検査したというのはどういうことかということ、通水したら変化したという意味、もつと具体的にいうことでございます。井戸は四十五年度事業でございまして、一応三月一ぱいが工期でございまして全部完了いたしましたわけでございます。四十六年度事業がおもにこれは配管工事でございます。いわゆるメインパイプをこの全地区に

敷設していくというのがすぐ始まつたわけでございます。これが終りました七月の十七日に通水式といいますが、メー
ンパイプがつながつたので通水を行なつたのがさつきから申し上げております七月ということでございます。ですから
その間は井戸の水の通水はパイプができ上りませんのでできなかったわけでございます。これが配管が終りましたこの
ような通水を済ますと、井戸の水は常時継続してあげて浄水池に送り、さらに滅菌して配水池に送り、配水池から落差を
利用して圧力で管を通してパイプに送るといふ順序でやるわけでございます。そういうことでこの期間の關係が約三、
四カ月空白になるわけでございますが、これは当然のことでございます。それで通水しまして継続して水をくみあげて
参りましたらこのような結果が出て参つたということで私どもいろいろと心配して水道のゴンサルタントにもきてもら
つて見てもらい相談もし、果にも相談した結果この状態ではやはり水道水として清浄な水を供給するということについ
てはそうした処置よりほかないというふうなことになるわけでございます。以上でございます。

○ 九番 (辻田 実君) そうすると、この時点で水質の変化ということでございまするけども、これは実際には水質
の変化ではなくて調査の不十分だということに当るのではないかと思うんですが、その点についてはどのようにお考
えになつておるのか。お伺いしたいと思います。

○ 水道課長 (大嶋重義君) ただいまの質問でございしますが、私どもはこの水道の調査につきましては不十分だとい
うことは考えておりません。十分なる調査をいたしましてここにも掲げてございますように事前に調査いたしたわけで
ございます。この水源池を選びましたのも電探調査もいたしましたし、どうしても地下水にあの地帯で求めるには佐野
よりほかにないということであそこの佐野に旧軍用の井戸が二本あるわけでございます。この井戸も一〇〇メートルの
ものでございます。これにつきまして揚水試験をし、水質試験をこのようにいたしたわけでございまして、そういうよ
うなことで一号井につきましてはこの井戸の同じ敷地でございまして、数メートル離れたところに掘つたというわけで
ございまして、私ども調査の段階では十分なる手を尽しましたのでその面での手抜きはないと私どもは考えておりま
す。

○ 九番 (辻田 実君)

できたものについてどうこうということとさせていただきます。この点だけはつきり今後
の問題もあるわけでございますが、市当局といたしましては手抜かりなく十分やつたというふうに思われます。またそ
のような形跡もうかがわれますけども、実際問題として手抜かりということがあつたかもしれません。先ほどの
市長の説明、課長の説明等によりますと精密な検査の結果十分だとの意見をあつたのでやつたということであつたわ
けです。しかし私はそういうことばの中でもつてこの種の問題が片づけられていくというのは問題があるというふうに
思うわけでございます。調査に努力したけども、しかし実際に四十六年三月にそういうことでもつて調査した結果、二
月に調査した結果適であつた。それが通水して三カ月か、四カ月の間に通水してみたところ適格ではなかつたというこ
とであつたから、適格性はやはり調査するまゝとができなかつた不備というものがあるのではないかとこのように指摘し
たわけでございます。さもないと今の答弁からいいますと、十分の調査ということになれば鉄と主として色度の問題でこ
ざいますけども、先ほどの説明の中にありましたように水質の変化ということだつたら外部的要因、大きな地
震とかによつてその水が何かの形でかわつていつた、かわる要因があつたのかどうか。それを提示していただきたい。
それがないとすれば、当然これはあの時点の調査としては十分でなかつたためにこのようなものが通水すれば出てくる
ということとを予測できなかつたということになるのではないか。その点についてはやはり行政的にたずさわる面につい
てはつきりさしてもらわなければならない。いいとかわるいということじゃありません。市の能力の面からいつて限
界であつたというならやむを得ませんけども、そういう点が反省されずにこうした問題がしようがないということでも
つて繰り返されていくということについては非常に遺憾であるわけでございまして、その点についてはどうなのかお伺
いしたいわけでございます。特に私はその点がやはりこの種の継続事業として事業を更新していく中でこういう点が明
らかにされていかないと非常にあいまいになるのではないかと危惧されるわけでございまして、その点を少し明確にし
ていただきたいというふうに思います。

○ 水道課長 (大嶋重義君)

この水質の変化が起きたということが何かかわる要因があつたかというようなことでご

ざいますが、私も今まで専門的なコンサルタント、県の方々係ねで見てもらい相談したのでございますが、かわる要因というものは出ておりません。一〇〇メートル近い深い地下のことでございますので、そうした地震とか地殻の変動とかは最近別に大きな天災的なものも起きておりませんのでないと思うわけでございますが、今までのとりまいた調査の段階ではすべてが適合せざるものであつたといふことでこれを継続して長く一般に通水を始めてある一定期間継続したらこのような変化が出てきたということでございますので、まあ私もはこのような措置はやむを得ないんではないか。こう考えておるわけでございます。むしろ、私も水道を担当いたしましたしております当初計画したものが大きなこうした難関にぶつつかるといふ、また大きな補正をお願いするということとは非常に重要な問題でございまして、十分この点等につきましましては考えているわけでございますが、今回の場合にどうにも私のほうはやむを得なかつたことと考へております。全くこのことにつきましては、私も予想がでなかつたこととでございます。

○ 二〇番 君塚喜三君 本議案には異議がございませんが、ただこの際関連質問をいたしたいと思うんですが、それよろしゅうございますか。

○ 議長 (吉田勇治郎君) いいでしょう。

○ 二〇番 (君塚喜三君) お許しが出たので関連して御質問申し上げたいと思うわけでございますが、本議案が承認されることによつて西部簡易水道は完成することと思ひますが、ここに一つ関連してお伺ひしたいことは過ぎた九月の定例会でも大きく取り上げられましたところの館山市の中心的存在をなすところの房州水道これについて過ぎた九月二十八日のローカル紙を見ておりますと、二十七日の定例記者会見におきまして市長さんは三芳水道、その他の水道を含めて県に移管をすべく陳情に十月四日出県をする。このように報道されておるんですが、その結果はどうなりしましたか、まずお伺ひいたしたい。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 関連もちよつとことがあれだと思ひますので、きよりの本会議での質問は、答弁は御考慮をお願いと思いますが、よろしゅうございますか。

○二〇番 (君塚喜三君) 了解。

○二二番 (田村源治郎君) 三處か、四處か聞きしだい。一号井、二号井、三号井、四号井距離は大体一号井から何メートルぐらにあつて試掘されているか。その点と深さは何メートルであるか。それから館山の砲術学校の掘つた跡の水質の検査の場所と何メートルぐらい距離があらがつてゐるか。それからあそこは環境面は表面はどのような状態をなしているか。それからその下の岩盤はどのようになつてゐるか。一〇〇メートル以下の岩盤はどのようになつてゐるか。そうしてあの土地は安政、元祿年間に隆起した地域である。地域は陥落性をもつてゐるのではないか。あそこ土地は大体白土があつて陥落してゐる地所である。地盤が沈んでゐる。表面の岩層はそれらを緻密に調べてあつたか。平砂浦は陥落地である。それらの調べたものをお答えお願いしたい。

○水道課長 (大嶋重義君) 第一点の各井戸の間隔でございますが、大体四〇〇メートルの間隔でございます。第二点深さでございますがおのおの一〇〇メートルでございます。それから掘つた場所でございますが、旧軍の掘つてあつた場所は御承知と思いますが、一号井戸というのはこちらから参りまして房南中学校のところを富崎のほうに曲がり片方は左側佐野の部落に入つていくところでございますが、そのうち側右側の低くなつた畑の中にございます。これが一号井戸でございます。深さは一〇〇メートルでございますが、ちよつとつまつて調査では九八メートル程度の深さでございます。それからもう一つのは反対に佐野部落のほうに入りまして警察の官舎がございますが、あの横にあるわけでございます。これもやはり同じような深さのものでございます。そうした二本のものの水質検査はさつき申し上げましたように点線のものが水質が該当するわけでございます。

今度掘りました井戸の水源地帯の特に地質關係でございますが、このことにつきましては、水道のコンサルタントによりまして電探調査も既設の旧軍用井戸のみにつきまして調査を行なつたわけでございます。あそこ地質でございますが、表面のほうは大体岩盤でございますがそれで五〇メートル以下に水層があるということでございます。それから下は砂岩と泥岩等のまじつた瓦層と申しますか、をりしたような地質のもので一〇〇メートルまで至る間に幾つかそ

うした層によつてさえぎられており、それから一番底のほうに参りますとある程度泥岩的な地質になつております。このようなことでございまして、表面のほうは大体岩盤でございましてこれからは取らないで五〇メートル以下の帯水層から取水しておる状況でございます。

〇 二二番 (田村源治郎君) 地域の砲術学校のものはずぐ山下であつて外面的な砂と砂鉄が少ないわけです。佐野の砲術学校のほうは表面には砂鉄分が多く含有量が含まれておる。そうして回わりには谷藤原近辺には白土が出る。そこにはいい水がある。砂鉄とかがない水である。佐野におけるあれはだれが考えても元祿、安政年間に隆起した場所であるから、これはよほど注意しなければならぬ場所ではないだろうか。ただそれを機械的に調べたからいいといううな、表面的にあれば間違ひなく陥落地ではなぬろうか。相の浜のところを掘つたとき、ともえ川のところを掘つたとき、白土を掘つたときだめだといつても両組合長は掘らせた。川の岩盤を見る限り陥落地である。岩層が塩野に伝わるところは山と山にかこまれた佐野のところは陥落地である。危険な水である。よぐれ水が必ず出るといつたら案の定ともえ川に掘つたところに三〇メートルで白土水が出てきた。使い道にならない水が、くさい水が出てきた。これにおいて表面も昔どのようになつていた地域ということ、山下ではないか。調査は十分やつてないということを私は結論づけるのではないか。表面に砂鉄分の砂が多い。あれが溶解する。富崎から布沼地先におけるものは鉄分の多いものだ。砂鉄の溶解したものである。地下水だから塩素が多くなる。地下水もそういう関係が多く含まれておるのではないか。この水道を掘るに對してもうやつてしまつてしようがないというよりもつと慎重度を感じてこの金を出してやつて果して間違ひなく完成するかどうか。それらの点をもう一回お願いしたい。

〇 市長 (本間 譲君) 田村議員さんの御発言本当に感謝しますが、神戸から西岬を通じての水道につきましては、なかなか水源池がございませんのでやれないというようなことで一応考えておつたことでございますけれども、これは館山にとりましては観光地としても非常に重要なところでしかも水がない。こういうわけでどうしてもあそこに水道をつくつて皆さん方の便利をはかろう。こういうことでいろいろ研究を進めたんですが、あの辺には水源池がなかなか

ないわけです。神戸にもございませんし、布沼とか藤原とかあの辺一帯に水源池はございません。大体頼みにしたところは元砲術学校の掘った井戸付近でございますが、大体あそこは佐野部落の地所でありまして、あれを使用することについて非常に反対を受けて長い間了解がつきませんでした、大嶋課長やなんかのいろいろ運動によりまして大体了解点にたつてあれを井戸を掘ることに相なつたわけでございますが、井戸の水につきましては田村さんのおつしやるような水が出る憂いもあるかと思ひますけれども、現在ほろ過設備等いろいろ進歩しておるわけでございまして、御承知のように川の水でも水道水にはちやんとろ過して滅菌すればりつばな飲料水になる。こういうことに現在もやつておるわけでございますので、今度どういう水が出るかわかりませんけれども、それには住民の方々にはさしつかえない水を供給するような処置が取られるはずでございますので、その点はぜひ御了承をいただきたいと思ひますが、昔のいろいろの御説明私どもははじめて聞いたわけでございますが、たいへんけつこうな御説明でありがとうございました。

○ 二三番 (田村源治郎君) 今、説明にいわれたとおり、鉄分もろ過すればさしつかえないといえはそうであるけれども、今後十分な調査をあらゆるものをしてそうして科学的な水道をこしらえて水道用水を流していただきたいということを要望しておきたいと思ひます。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○ 議長 (吉田勇治郎君) 本案については委員会の付託を省略いたしたいと思ひますがこれに御異議ございませんか——御異議なしと認めます。よつて委員会付託は省略することに決定いたしました。

討 論

○ 議長 (吉田勇治郎君) これより討論を行ないます。

○ 九番 (辻田 実君) ただいまの御質疑の中におきましていろいろと出されたわけでございますけれども、私ども

はこのような事業に対してはほとんどものについて調査をいたしておりません。市当局から調査して出された種々調査の結果、それらについてはほとんどそのものをうのみにして信頼して討議しているわけでございます。したがって今回のように半年たつてみたら水質がかわつておつた。かわつておつたから何とかしていただきたい。こういうような形で出されて参りますと非常に困るわけで、また行政、議会という立場において事業のこうしたことがたびたびかわるようなことがあつたのでは市の公的機関の威厳、市民に対するところの信頼感というものが失われるというふうに思うわけでございます。従来も三芳水道のダム建設についても大きな事業変更がある。特に神戸地域においては尿処理場の水不足に伴うところの井戸を掘るときには十分井戸の水があるということと掘つてみたけども、その後においては井戸水ははじめの調査ほど出なかつたということでもつて、ほかの用水を使つて処理場を使うというようになると、そうした前例が多くあるわけでございます。それにはいずれも市から出された調査は絶対だという条件の上にたつてわれわれが承認していききましたものが一年たち二年たつてみると違つた結果が出てくるということでは非常に困るわけでございます。今回の問題にしてみてもこうしたことが当然予想されたであろうし、また予想されなくても細菌装置だけでもつて十分にその水道の利用能力というものが満たされておるといふ十分な自信のもとに提案されたわけでございますけれども、これがもう少しの立ち入つての調査がこの時点において、水質検査の時点において今は適当であるけれども将来の問題を考へて沈んで浄化槽というものを同時に作つておくならば私は今回のような問題は起きてこないし、またこのように臨時議會を開いて討論しなくても十分済む問題であるというふうに思うわけでございます。

したがって、今、館山では非常に苦しい財政の中にあるわけでございますが、内容的には適していたものが不適になつたからその時点でそれを修正し、変更していけばそれはそれでこと足ります。しかしながら、先ほど申したように行政というところ、そういう立場に立つてみた場合にはやはり決定的な調査、そうして研究し一部の狂いのないといううな状況の中において行なつていかなければならないのではないかと、いふおりに思うわけでございます。

今回のようにわずか通水してから三カ月乃至四カ月でもつて水質の変化が起つたのもつてかえてもらいたい。このことについては賛成でございます。わるい水を供給して市民に不利益を与えることはできません。しかしながら行政というものはこうした形の中でもつてつぎ張りのように次から次にかわつていくということがあつてはならぬと思います。市長さん並びに助役さんは特に今の館山の財政事情そうして政治の信頼性そういうものを保つ意味からどうかこうした事業については、今後このようなことがないようにひとつ十分に考慮していただきたい。そのことを私は要望意見といしまして本案については賛成をいたしたいと思ひますので、以上意見を申し上げた次第でございます。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 他に討論はございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○ 議長 (吉田勇治郎君) これより採決を行います。

本案を原案通り可決するに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○ 議長 (吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

議 案 の 上 程

○ 議長 (吉田勇治郎君) 日程第四、議案第七十六号契約の変更についてを議題といたします。

(書記朗読)

議案第七十六号 契約の変更について

議案の内容説明

○議長 (吉田勇治郎君) 説明を求めます。

○庶務課長 (小倉澄男君) 議案第七十六号につきまして御説明申し上げます。

本件は、ただいま御議決をいただきました西部簡易水道の予算の補正の中に提案いたしておりました上水道のことでございますが、西部簡易水道本体工事の追加工事といたしまして、浄水施設が必要となつたということで現在工事を施行中であります。東京都渋谷区のエタニット建設株式会社東京支社に見積りを徴しましたところ、二千六百四十万四千円という見積りが徴されましたので、本体工事の契約相手方であるこの会社と二千六百四十万四千円の契約を締結いたし、総額におきまして一億五千九百四十万四千円という額に総額の契約を変更いたしたいということでございます。

○議長 (吉田勇治郎君) 御質疑願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長 (吉田勇治郎君) おはかりいたします。本案を委員会付託並びに討論を省略することに御異議ございませんか。——御異議なしと認めます。

採決

○議長 (吉田勇治郎君) これより採決を行ないます。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長 (吉田勇治郎君) 御御異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決されました。

議案の上程

○ 議長 (吉田勇治郎君) 日程第五、議案第七十七号館山市中小企業資金の融資に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

(書記朗読)

議案第七十七号 館山市中小企業資金の融資に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案の内容説明

○ 議長 (吉田勇治郎君) 説明を求めます。

○ 商工観光課長 (鈴木 力君) 議案第七十七号につきまして御説明申し上げます。

今回の条例の一部改正につきましては、現行の中小企業資金の融資の貸し付け限度額の改正と貸し付け期間の規定を改正しようとするものでございます。貸し付け限度額につきましては条例の第四条第二号に規定されております一企業者に対します設備資金の貸し付け限度額を現行の百万円から三百万円に改正しようとするものでございます。なお、運転資金と設備資金を合わせて貸し付けを受ける場合におきましては、三百万円までを限度額といたしまして貸し付けを受けることに新たに第四条の二項といたしまして規定しようとするものでございます。

次に、貸し付け期間の改正でございますが、条例の第五条第一号中に「二年以内」を「三年以内」に改めると申しますのは、前条の設備資金の貸し付け期間を現行二年以内でございましたものを三年以内に返済期間を延長しようとするものでございます。以上が条例の改正内容でございます。附則におきましてこの改正につきましては十一月十一日以降の申し込みのいわゆる十二月貸し付け分から適用しようというものでございます。以上でございます。

質疑 応答

○ 二〇番 (君塚喜三君) 運転資金は別といたしまして、設備資金につきまして限度額を百万円から三百万に引き上

けたということはけっこうでございますけれども、その償還期限を三年以内、設備資金でもつて三年以内というよりなこういつたものは現実的にほごにひとしい高ねの花といいたいような実態でございますが、もう少しそれは延長できないものかどうか。そうでなければ中小企業設備資金として投資をし、それを三年以内で返済できるというようなものはおそらく数少ないと思います。全然ないとはいわぬけれども数が少ないと思います。その点いかがですか。

○ 商工観光課長 (鈴木 力君) 貸し付け期間の問題でございますけれども、一応設備資金につきましては、今まで限度額百万円に對しまして二年以内ということになつておつたわけでございますけれども、~~年~~限度額の引き上げによりまして三百万円にいたしましたわけでございますが、それに伴ひまして期間延長というところで一年延長いたしました三年以内というふうなことにいたしましたわけでございますが、この期間延長につきましても金融機関の各支店長さん方の御意向を十分お聞かせいただきました上で、なお融資審査委員等の御意見も十分御検討いただきました上で期間を定めたいということでございますので御了承たまわりたいと思います。

○ 二〇番 (君塚喜三君) それでは伺いますが、これまで二年間の返済期間で利用者がどのくらいございましたか。おそらく私は運転資金以外には設備資金としては利用者がなかつたのではないかとしか考えられませんが、その実績をひとつ教えていただきたい。以上です。

○ 商工観光課長 (鈴木 力君) 四十六年に入りましてからの融資の状況でございますが、一応四月から十月までの間におきます申し込みの状況につきましては、運転資金におきましては二十一件の金額千三百六十万に對しまして、融資を決定いたしましたものが二十件でございますして、金額につきましては千三百三十万でございます。

なお設備資金につきましては、件数が九件の申し込み金額七百十万に對しまして、決定されました件数六件、金額四百十万円でございます。かような貸し付けの状況でございます。

○ 二〇番 (君塚喜三君) ただいま説明されたとおりです。運転資金としては承認されたものが二十件であつて千三百三十万円、ところが設備資金についてはわずかに六件四百十万ということなんです。三百万に引き上げられたから

きいつて、それをしかも一年延長したからとてどうして設備資金がそんなにふえていくか。利用者が出てくるだろうか。便宜がそれだけかはられるだろうか。設けた趣旨にそれだけそうすることができないのではないか。私はそのように思います。できることならば、もう少し設備資金というものは延長していただきたい。だいいち銀行だつてそうでしょう。設備資金となれば、~~金~~という形において相当延長しておるじやないやうが、そのことを思うならば私は三年というような、三年以内といつたような設備資金の返済期間というものについては、私は改正すべきであらう。このように考えます。その点もう一度御所見をお伺いしたいと思います。

○ 商工観光課長（鈴木 力君） 貸し付け期間につきましては、できる限り長い期間のほうが利用されたい中小企業者にとつてはよろしいのではないかということは考えるわけでございますけれども、やはり政府機関あるいは県機関におきます設備近代化資金等におきまして三年以内というそういう制度も多々あるわけでございます。まして市におきます融資でございますので、一応三年程度が適當ではないだらうかというような結論に達しまして、現在の二年を一年延長したいというのが考え方でございますので御了承願います。

○ 二〇番（君塚喜三君） 設備資金が三百万といつたようなものはわずかなといつては語弊があるかもしれませんが、わずかな額だ。それをお借りするのに審査委員会にかけて検討していただいて、その上に保証なしということではなからうと思うんですが、そういうことをしていただいてそうしてしかも三年以内に返済する。そんなものを利用するならば市中銀行でどんどん貸してくれますよ。それぐらいならば、だから、もう少しせつかくを貸した融資機関を設けるとするならばもとと利用度の高いものにしてほしいと私は思うわけなんです。その点について再考願えないか。市長さんこの点いかがです。市長さんにお伺いします。

○ 市長（本間 譲君） 君塚さんのお話しのように事業をやる方においては期間が長いほうがゆつくりできていいわけでございますけれども、あまり期間を長くすると返済の面について、私も借金した覚えもございすけれども、気がゆるむという語弊がありますけれども、ゆつくりして返済のほうが遅れがちになるような面もないことはないと思ひ

ますが、一応一年延ばしたんですから三年で御了承を願つてまた今後の実績を見まして延長ができればやつたらどうかと思うわけでございますが、大体この資金については利用者が少ないですね。館山市の場合は非常に少ないわけで、少ないということは金融機関がたくさんあるから今、君塚さんがお話のように銀行でどんどん長期にわたつてお借しになる関係もあるかと思いますが、あまり利用者が少ないように考えておるわけでございますが、私はもつともつとはじめからあるかと思つておりましたが、わりかた少ないですね。いずれにしても期間につきましては今回一年延長を関係機関を通じてあるいは銀行の方々と相談してそういうふうに内輪の話し合いを進めたわけでございますから、本年はこれでお認め願つてまた本年の実績によりまして考えていつたらいいいじやないかと思ひますので、ぜひひとつ原案を御了承を願いたいと存じます。

○ 二〇番 (君塚喜三君) 満足する御回答を得れたというふうには考えませんが、今後実績を見て善処するということとでございますので、一応私の質問を打ち切ります。

○ 一八番 (安西益男君) 若干お伺いしたいと思いますが、中小企業のいわゆる融資制度これはとりもなおさず中小企業の救済ということがねらいというふうに思われるわけですが、先ほど市長さんからも御説明がありましたように、非常に経済的な事情、中小企業が非常にきびしい条件におかれておる。非常に昨今中小企業の倒産も全国的には多い。加えてドルショックという将来に対する不安、そういう面からしますと、また当市におきましてもいわゆる大企業といひますか、大きな商店が相当進出してきておる。中小企業のこれからの計画というものは不安の連続ではなからうかこんなふうなことに考えるわけです。そこで制度をもう少しワクを私はそういう人たちに緩和した制度、つまり他市等におきましては無利子、無担保こういう制度も各市では非常に前向きな制度というものが制度化されておるといふうになつておるわけです。そこでこういうた制度をせつかくこれから中小企業の人たちが安心できてそうしてまた恩恵に浴せるワクの点をいさ少しゆるやかな面を研究できないかということを考えるわけです。そういうわけで設備資金にしましても最近では金融公庫等では新しく事業を始める人には手持ち金が、事業が二百万かかるとするならば百万は新し

い事業を始める人に貸し付け制度ができたということになっております。國の制度あるいは県の制度もだんだんそういった人たちの主体性を生かしていくような制度化されてきつつあります。そうした観点からすれば本当に真に中小企業の人たちがいさ少し緩和された方法があるならば、事業の面に自信をもつていかれるという面が多々あるわけでございます。あるいはまた最高限度五十万といったようなワタのゆるやかなことが今後相当真剣に考えていただかなければならないのではないかとというふうに考えますが、そんな点の御意向をお伺いさしていただきたいと思います。

○ 商工観光課長 （鈴木 力君） 現在の融資の制度の中で貸し付けの要件の改正案ということでそれらについての見解ということでございますが、今回の条例の改正に伴いまして、規則の一部改正ということをご予定しておるわけでございますが、その中で、たとえば従来連帯保証人につきましては二十万未満のいわゆる小口融資につきましては、一人の保証人というところで規定されておりましたが、今回規定を改正しまして五十万円までは一人の保証人でよろしいというふうに規則の改正も行なう予定でございます。その他現行の貸し出し金利につきましては八分二厘五毛、設備資金につきましては八分五厘というふうにそれぞれ金利の引き下げを金融機関のほうにお願いいたしましたわけでございます。そういうことで貸し付け利率の引き下げあるいは保証人の関係におきましては緩和をいたしましたわけでございます。

○ 一八番 （安西益男君） だいぶ緩和されるということでありますけれども、先ほど市長さんからお話があつたように非常に利用者が少ない。確かに利用したいという人がたくさんあるわけです。そうした制度によつてほしいながらもいろいろの不安があるというところで利用できない。これが実情ではなからうか。こういうふうに考えます。そういう面でも先ほど五十万円までは利用されているというようなお話しでありますけれども、設備資金等はさつき申し上げましたように新しくやる場合に手持ち金が半分あればあと半分は貸し出してもいいというふうな制度、そういうふうなことも研究していただきたいというふうに考えるわけですが、そういう点についてはどんなものでしょうか。

○ 商工観光課長 （鈴木 力君） やはり県の変動が激しい現況でございますので、経済環境の変化に伴ひまして逐次

融資制度を改善していかなければならないと考えております。

(二八)

○ 一八番 (安西益男君) ぜひひとつ、そんなふうに前向きに至急にそういった面を御検討願いたい。こんなふうに要望いたします。

○ 一〇番 (渡辺軍治郎君) ただいままでの説明で貸し付け者に対しては一步前進の面が見られることは見られますが、市が預託融資金としての千五百万円出していると思うんですが、貸し出し額を三倍にしているのに市の出資が増加していないということは、先ほども質問の中にあつたようにこの償却年数が一つのブレイキになつてゐるんではないか要するに借りたくても、償却期間が非常に短かいということではなかなか借りようとしても借りられない。預託融資を設けた本来の趣旨はやはり館山市内の商店があるいは事業が発展できるようにそういう援助をするために設けられたものであると思いますが、実際出資の面では利用者が少ない。利用者が少ないから資金を増加しなくても何とかかなえるんではないかというむしろ前向きよりも一步後退したようなそういう面も考えられるわけです。特に最近の景気をみますと、ドルショック、その他で中小企業が非常に困難になる。そういう情勢の中でもつと利用者が本当に利用できるようなそういう方向にもつていくべきではないかと思いますが、この資金の増加がないという点についてどうということなのか。お伺いしたいと思います。

○ 商工観光課長 (鈴木 力君) 現在の預託につきましては、千五百万円を各取り扱い金融機関に預託しているわけでございますけれども、今回預託額に對しまして現行六倍でございましたものを、さらに八倍まで預託融資の限度を倍加して参つたわけでございますが、それによりまして四十六年度預託いたしました一千五百万円に對して一億二千万までの融資のワクが広がつたわけでございまして、したがいまして、預託金額につきましてはこの倍率を増加して参つたことによりましてカバーいたしましたわけでございます。財政的な面もございしますので、一応現行の六倍から八倍程度に倍率を広げていただきましたので、それによつて運営がつくんではなからうかというふうに考えておるわけでございます。

○ 議長 (吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

- 議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案については委員会の付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。——御異議なしと認めます。よつて委員会の付託は省略することに決定いたしました。これより討論を行ないます。本案に対する討論はございませんか。——討論なしと認めます。

採決

- 議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。
本案を原案通り可決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

- 議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よつて本案は原案の通り可決されました。

閉

会

午後二時三十七分

閉

会

- 議長（吉田勇治郎君） 以上により本臨時会に付議されました案件全部を議了いたしました。よつてこれにて第五回市議会臨時会を閉会いたします。

- 本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

二、会期の決定

一、議案七十五号乃至議案第七十七号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議員

館山市議会議員

館山市議会議員

吉岡 哲郎

栗原 一雄

飯田 義男

